

第4回 仙台市部活動地域移行検討協議会議事録

- 1 日 時 令和7年7月10日(木)
午後2時00分開会
午後4時00分閉会
- 2 場 所 本庁舎8階 第5会議室
- 3 出席委員 大内聡委員、川股直哉委員、木村ひろみ委員、桑原康平委員、郷家貴光委員、鈴木浩志委員、高島秀一委員、福田元明委員、洞口乃委員
- 4 事務局職員 大森次長兼総務企画部長、岡本健康教育課長、太田健康教育課主幹兼主任指導主事、波多野健康教育課保健体育係長、長谷川健康教育課指導主事、山崎健康教育課主事、新妻教育指導課長、芳賀教育指導課主幹兼教育課程係長、大黒教育指導課主任指導主事、門間教職員課管理主事、加藤生涯学習課主幹、青沼生涯学習課主査、吉田スポーツ振興課長、伊藤スポーツ振興課企画係長、佐久間文化振興課長、平石文化振興課主幹兼文化振興係長

5 配付資料

資料1 第4回仙台市部活動地域移行検討協議会

資料2 アンケート(案)

6 会議の次第

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 委員長・副委員長選出
- 4 議事「国や県の方向性を踏まえた本市の学校部活動について」
- 5 報告
- 6 閉会

7 議事の概要

「国や県の方向性を踏まえた本市の学校部活動について」

- | | |
|------|--|
| 事務局 | 本委員会設置要綱の定めにより、委員長が議長となることとなっており、ここからは桑原委員長にお願いする。 |
| 委員長 | 議事に先立ち、今回の委員会における議事録の署名委員は川股委員にお願いしてよろしいか。
(異議なし)
本日の議事は、国や県の方向性を踏まえた本市の学校部活動についてはじめに事務局から説明願いたい。 |
| 事務局 | —資料1に基づき説明— |
| 委員長 | ただいまの説明について意見・ご質問はあるか |
| 洞口委員 | 割り切り方として土日はしないという考え方とした場合、地域で本当にできるのかというところがポイントになる。また、教職員が兼職兼業としてやっていく場合の整理はどうかという議論を継続してきた。アンケートで実態を捉えて、決断することになると想定される。難しい課題であると認識している。一方で移行が展開に変更になったとこともあり、国の捉えも当初よりは実態を踏まえ、ペースダウンしてきたと感じる。 |
| 鈴木委員 | 寺岡中学校では卓球で土曜日のクラブ化がスタートしている。また、勤務時間内に部活動が終了するよう設定されており、教員、生徒、保護者からメリット、デメリットの声がある。教員は残業が減少し、生徒と向き合う時間や家族との時間が増えた一方でもっと部活をしたい方もいる。生徒の意見は二極化していて、もっとやりたい、これくらいがいいとのことである。そのような中で、Youtubeで練習の効率化を図ったり公園に自主的に集まって練習したりしている。保護者はもっと部活がしたいのにどうして短くするのかという声が多い。生徒の時間の使い方が悪いとの声があった。ただ、不満はない保護者は声を上げていないとも捉えられる。過渡期の今は軋轢は止むを得ない。 |

	感覚を慣らしていく時期と感じている。部活動を頑張る期間、学習を頑張る期間メリハリをつけて実施している。
委員長	仙台市はスケジュール感についてどのように考えているのか？
事務局	宮城県は令和10年度までを目安にしているため、本市もそれに合わせたいと考える。
委員長	県がそうならば、本市においてもというところか。
福田委員	(中学校の実態について) 教員には熱意をもって部活動に取り組んでいる教員、学生時代に行っていた種目の顧問、そうでない種目の顧問でも頑張っている教員がいる。一方で、私自身経験があるが、教えたくても学ぶ時間もなく、教えてくれる人もいない現状があり、苦しんでいる先生も同じくらいいると感じている。展開は進む中で教員が教える部活、クラブにお任せする地域展開どちらも選択できる環境を残しておく必要がある
大内委員	(文化部について) 吹奏楽では楽器の管理、活動場所の確保が課題である。また受け皿がない状況にある。仙台市レベルの大きな枠で活動するという例は見たことがない。少子化に伴い、大会の在り方も変更しながら活動している。部活の在り方については教員の情熱に頼っている現状である。地域展開は進みづらいのではないかと推測される。教員の兼職兼業に落ち着くのではないか。
郷家委員	(教育現場として) 移行時期については、国のスケジュール、県の動向に鑑みれば、これが目安と考える。展開後も意欲を持った教員には兼職兼業で地域に関わる枠組みを作る必要がある。
高島委員	文化観光局の立場として具体の検討に入る時期であると認識している。教育委員会、文化観光局、学校現場を総動員して仙台市にふさわしい在り方を議論していく時期であり、そのためにも大きな方向性を共有する必要があると考えている。
木村委員	新田では卓球、バドミントン、剣道のクラブが盛んで休日はそちらで活動する部活が多い。それぞれの地域の盛んではないスポーツをどうしていくか、また学校と地域の関わりも大切ではないか。よろしくない話も聞こえてくる。すべてを地域に任せてよいのか？
川股委員	スポーツ少年団は約15%しか受け皿として手を挙げていない。令和10年を目指すなら課題とされていることへの道筋をどうつけるか。場所、資金の問題等具体的に議論していかないとスポーツ団体は移行がしづらい。一定数関わりたいとのことであるので懸念を払拭できれば選択肢の一つになりうると思う。関係者の方々は情報が無いと言っている。仙台市が目指す形などを関係者の方々とともに具体的に話し合わない結論に至るのは厳しくなる。
委員長	スケジュールは令和10年度でスパッと部活が終わり、11年度からすべて展開というのは現実的ではない。8年度以降、できるところから地域展開を始めるという結論になるかと思う。
委員長	今の規模のまま展開できるかご意見を伺いたい。
鈴木委員	縮小せざるを得ない。しかし休日、平日もいずれ展開となれば指導者は確保できるのか？サラリーマンが平日、休日参加できる仕組みも考えなければならぬ。企業側にもアプローチできないか。法人税を下げるなど尖っているが方法論として。
福田委員	個人種目はいいが団体種目で同じ部員がそれぞれ別のクラブで練習するとなってしまうとみんな練習する時間は確保できなくなる。休日の展開後は、部活動は平日だけだと、練習試合が組めない。チームとしての活動が成立するのか？特に集団競技は、同じクラブに行くことにするのか、個人でクラブを選ぶのか、そういうイメージを持っていく必要がある。
委員長	国が示す地域クラブとは何か説明願いたい
事務局	大きく異なるのは主体が学校から離れた活動となる。広い意味で、地域で子どもたちを支えていく活動させていく。
委員長	資料内にあるがどこまでが行政や学校、どこからが地域となるかの整理が必要。
洞口委員	全ての部活動が地域で行えれば理想だが非常に難しい。土日は部活動をしないと割り切り、部活でバレーボールをしているが、土日はバスケットボールをしようというような様々な選択肢があっていいと感じる。大会としては、土日で行っているクラブで中総体に出たいとなることも。学校単位で大会に出て土日は自由に、となればいいと思うが。10年くらいかけて考えていくのだろう。

- 大内委員 吹奏楽は、休日に活動しないなら、部活動はやらないとなる。でなければ働き方改革にならない。地域の人が学校で活動するにも鍵の管理等のセキュリティーはどうするのか？結局校長教頭が管理するのか？それでは意味がない。もう少しルールを整理しないと議論が進まない。
- 郷家委員 活動場所が課題となる。第一候補は学校か。資源として考えている。
- 委員長 土日は部活動をやらないという方向性が見えれば課題が見えてくる。
- 川股委員 洞口委員がお話されたケースのように休日は地域のクラブに参加して、趣味、好きなことや本業の平日の部活を補うようなものができるとは新たな価値だと思うが、そうなってくると地域のスポーツ団体が受け皿として積極的に手を上げるものだろうか？スポーツ少年団等は、競技スポーツをしている方たちなので、中学生にとって一番大きな目標である中体連等に地域クラブが参加できるようにすることを期待されていると認識しているし、地域クラブをおまけのようなイメージで共有してしまうのはどうなのか。
- 洞口委員 県大会は一部クラブチームから出場している。全国中学校体育連盟から一定のルールが示され、県中体連は各市町村が認めた団体は参加を認める形をとっている。
- 委員長 違う問題も出てくる。例えばバレーボール部員が10名で地域クラブが学校の近くでできて、5名は部活、5名は地域クラブとなるとどちらも人数が少なくて合同チームとして出場するか、出場できなくなってしまう。中体連としても悩みどころである。
- 委員長 地域クラブはハイパフォーマンス、競技力向上の視点とライフスポーツの視点がある。マルチスポーツとも捉えることができる。欧米では複数競技に関わることは普通。
- 福田委員 部活動の形を維持するか、個人の裁量でマルチな活動をするか。どのような形になってもしっかり休日に関心を持って自分自身を高められるよう主体性を育むことが大切である。

8 報告 アンケートについて

- 事務局 一資料2に基づき説明。
- 委員長 ただいまの説明について意見・ご質問あるか
- 福田委員 対象を中学校1、2年生とされているが3年生を追加してほしい。部活をやり終えた生徒の意見は反映させてほしい。
- 大内委員 部活動、地域クラブの活動にあてはまらない生徒の自主的な活動を選択肢に入れてほしい。
- 委員長 アンケートの取りまとめはいつまでか説明願いたい。
- 事務局 次回検討協議会開催の11月を目途としている。

9 その他

- 委員長 以上で、本日の委員会を終了とさせていただきます。
- 事務局 本日本気づきになった点や、必要な資料等があれば、連絡頂きたい。
- 以 上

令和7年9月9日

署名委員 仙台市部活動地域移行検討協議会委員長

桑原 康平

仙台市部活動地域移行検討協議会委員

川股 直哉